

石川悠加(編)

「NPPV(非侵襲的陽圧換気療法)のすべて これからの人工呼吸」

千住秀明

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科保健学専攻

本書のタイトルは、「NPPV のすべて—これからの人工呼吸」である。そして、これからの医療従事者を対象とした医学書のあるべき方向性を示した書でもある。私も数多くの NPPV テキストと接してきたが、これほど明快に NPPV を解説した書に出会ったことはない。すべての章が、看護師、理学療法士、臨床工学士の目線で丁寧に解説されている。

本テキストは、I～V 章で構成され、I 章では NPPV が今なぜ必要なのか、その基礎知識を解説し、初めて人工呼吸に取り組む若い医療関係者でも容易に理解できるよう、難解な人工呼吸の構造やモードなどを丁寧に解説している。

II 章では、NPPV 導入のプロセスを、適応、適切な機器の選択、モニタリング、トラブルおよび副作用・合併症対策、疾患別の特徴などの視点から解説、また NPPV の限界を示し、気管内挿管への移行の見極めまでを含めた基本的事項がすべて記載されている。

III 章では、看護師や理学療法士の卒前教育で不足している NPPV の取り扱いと基本操作、アラーム対応およびリスクマネジメントについて、図、表、写真などを用いて、文章を読まなくても理解できるような工夫がなされている。

IV 章では、NPPV の看護について、アセスメントのポイント、排痰介助、体位/移乗、日常生活援助、小児 NPPV の看護、自由な活動の援助および退院支援な

ど、継続援助を「なぜ看護において NPPV を理解する必要があるのか」との視点で解説している。

V 章では、疾患別 NPPV の管理とケアについて書かれている。各疾患別では、NPPV 療法の第一線で活躍している著名な執筆者が担当し、急性呼吸不全では COPD の急性増悪、心原性肺水腫、喘息、ALI/ARDS、重症肺炎など、慢性呼吸不全では睡眠時無呼吸症候群、慢性期 COPD まで、呼吸器分野では必ず経験するであろう疾患を幅広く網羅し、解説している。

コラムは全章を通して、NPPV と関連分野のトピックスを取り上げ、NPPV が果たす役割の重要性和その広さを示し、NPPV 療法の深さと面白さを深めてくれる。

イラストも面白い。筋ジストロフィーの患者さん自身が描いている。この難解な NPPV の理解を助けてくれるだけでなく、このイラストを見ただけで、NPPV がいかに患者(児)さんに不可欠な医療戦略の 1 つとして定着し、また QOL の改善に有用であるかが伝わってくる。

一方では、人工呼吸管理において、経験あるスタッフでも時にはとまどうことがあるような難題や場面にも十分配慮して記載されている。何よりも興味深いのは、編者の石川悠加氏や三浦利彦理学療法士をはじめ、病院スタッフの呼吸不全患者(児)さんへの優しさや思いやり、また呼吸管理への哲学が 1 つひとつの文章や行間に感じられることである。本書は、読者が医療人としてどうあるべきかまで指し示した書でもある。

●AB 判 262 頁

(JJN スペシャル No. 83)

定価 2,730 円(本体 2,600 円+税 5%)

2008 年 医学書院・刊